

インプラントの領域を超えた内容

日時：平成27年11月15日（日）

場所：ステーションコンファレンス東京



福留 淳一（東京都）

去る11月15日に東京駅そばのステーションコンファレンス東京で日本歯科先端技術研究所（以下JISD）とわが日本臨床インプラント研究会（以下CISJ）の合同研修会がステーションコンファレンス東京で行われた。

今回の主幹はCISJ。今年で第3回を迎える。

みな内容が豊富で時間いっぱい使った、熱がこもった講演であった。

参加した両会会員

午前の会員発表はJISDからは奥森直人氏「歯科医療と経度認知障害（MCT）の相関」、吉野晃「このインプラントどうする？—既存のインプラントに考慮した咬合再構成—」、わがCISJからは笹谷和伸氏「介護保険から考える今後のインプラント治療」、佐藤文明氏「TCH（歯列接触癖）是正による力のコント

ロール」であった。

4人の発表後、座長の田中譲治氏、志賀泰昭氏の下活発なディスカッションが行われた。

インプラントの研究会同士だが歯科医療が人に貢献するためにはどうしたらいいのかというインプラントの領域を超えた内容であった。これもメインスピーカーのなせる業であろう。

ついで本日の主役、皆が待っていた宮地建夫氏の講演。

演題は「欠損歯列のリスクと欠損補綴のリスク」宮地建夫氏の歯科医療に対する真摯な思いとひたむきな治療がにじみ出る講演であった。

その後は午後の部の会員発表。JISDからは渡邊孝彦氏の「上顎洞挙上手術におけるリカバリー症例



第3回 JISD・CISJ合同研修会

報告」、鎌田政宣氏の「上顎前歯槽骨矢状断面の形態的特徴と造成法についての再考」、CISJからは筆者の「上顎洞の生理的役割と自然孔の位置」、藤原康則氏の「Think of invisible sights」であった。

このセッションも宮地氏の熱弁が波及し、時間を少しオーバーした濃い内容であった。

午後5時から隣のビル1階のBar of Tokyo で懇親

会が盛況に行われた。

宮地氏のあいさつの中の「会員の発表を聞いてこの会は本物の学会だと感じました」という言葉が印象的であった。

JISD, CISJ互いが存在を認め合い、これからもいいライバル関係でありたいと次回はJISD主幹で開催することを約束し皆帰途についた。

